



東高だより

一はなみずき

第29号
(H23.9.13)

「雨戸」

大型の台風接近で学校も途中で切り上げた。会社の中にも勤務を早く切り上げたところもあるのではない。東日本の震災で防災に対する意識が国民全般に広まった結果であろう。

それにしてもこの台風はのろのろしている。数年前には道草台風が来た。こいつは右に左に進路を変え、北上したかと思ったら凶々しくも南下までしてきた。気ままにもほどがある。このとき風と雨で日本中が被害に遭った。気まぐれと気ままは、何かにつけ迷惑をかけるものらしい。

テレビで台風の進路と速度を確認したら、まだ室戸岬の手前をうろろしていた。恥ずかしながら、朝目覚めるとき風雨が弱まっていたので、てっきり台風が過ぎ去ったものと勘違いし、雨戸を戸袋に戻してしまった。ところがどっこい、台風はまだ四国に上陸していなかったのである。うちのばあさんに「あんた何しよんな。まだ台風は来とらんがな」と言われて初めてそのことを知った次第である。

雨戸を開けたとき、暗いながらも光が部屋に差し込んでくる喜びは大きかった。外の田園風景も心和むものだった。ところが再び雨戸を閉め、暗闇の世界に逆戻りとなった。電気を灯し、湿った空気が充満する閉ざされた空間に身を置くと、気持ちまで沈んでいった。さて何をするかな。テレビは嫌いだから、することは限られる。

そこで考えてみた。雨戸を閉ざした部屋で、例えば1週間過ごさなければならぬとする。果たして何をするか。どうですか？ あなたら何をしますか。1週間といえば、外の世界に暮らす分には短い、幽閉された生活となると、これは結構長いですぞ。

二つのことが真っ先に頭に浮んだ。まず読書。私は活字中毒だから、書棚から本を何冊か選び出して読みにかかるだろう。鷗外、漱石なんかはダメだ。高尚すぎて読んでるとすぐ睡魔がお迎えに来る。じゃあ最近の売れっ子作家？

これも読後感がまったくない。数日すれば内容を忘れていく。ダメダメそんなものは。折角1週間という時間を与えられたのだから、もっと有効な読書にしなければ。才能

を惜しまれつつ癌で他界した中上健次なんかはいいかもしれない。近代自然主義文学の旗手的作家だった。あの力強い文体ならまる2日くらいは乗り切れる。次に文章を書く。パソコンは目が疲れ肩がこるから、1日中はしんどい。日に多くても3から4時間程度だな。じゃあ他には？ 他にと言われても、ここからが困る。走りに行きたくても外には出られない。仕方ないから、腕立てと腹筋をそれぞれ1,000回する。あと柔軟。これで終わり。次は？ 掃除はどう？ この私がそんなものしますか。ゴキブリ人間ですぞ。じゃあビデオを見る。いやーあにくビデオデッキは壊れておまして。それじゃあDVD。これも無理ですわ。DVDは1枚もありませんし、何よりデッキがありませんがな。困りましたね。インターネットは？ インターネットは回線を引いていません。残念。あっ！ 思いついた。絵を描く。いいこと教えてくれました。これなら2日くらいはいけますよ。柄にもなく絵は結構好きですからね。食べることは？ うーん、食べるのはちょっとね。常にカロリー計算してますから。食べることは人生の最大の喜びの一つであることは分かっています。



す。カンターレ、マンジャーレ、アモーレですわね。でも、食べてばかりはちょっとね。でもうどんなら大丈夫ですよ。あれは毎日食べられますから。かまたまうどんなんで最高。音楽を聴くのもいいんじゃない。特にクラシック。いいね。でもこれも1日中となると無理。あんたは難しい人間だね。私はそうは思っていないんですが。だったらこうしましょう。ウンコして、読書して、文章を書いて、腹筋・腕立てやっ、絵を描いて、音楽を聴いて、低カロリー食を食べて、歯を磨いて、寝て、愛しい人の夢を見る。これで1日のメニューは完璧。これを1週間続ける。

いやはや暗闇の世界に暮らすというのは大変なことですね。穴居人はどうやって時間を過ごしていたのか。考えてみるに、今私が考えたことは、「余暇」という穴居人にはあり得ない概念を前提としたお遊び事に過ぎない。そもそも穴居人は余暇なんてなかったはず。その日その日を生き延びること、これが最大の課題だった。もし私が石器時代にタイムスリップしたら、1週間どころか1日だって生きられないだろう。低カロリー食品の心配も不要。すぐに飢餓状態になって死んでしまうだろうから。読書に音楽鑑賞だと。馬鹿言うでねえぞ。そんなことより栗拾ってこい。ドングリ拾ってこいちゅうだ。腹筋に腕立てだ。寝ぼけたこと言うでねえ。そんなことするよりイノシシ捕ってこい。毛剥いで着るもんこっしやえんかい。絵を描くだと。馬鹿言うでねえ。そんなことするより土ねって土器こしらえんかい。ついでに石割って鍬もな。ほんな馬鹿たれが。(穴居人の声より) ご意見ごもっともです。平身低頭承ります。

ということで、今回の私の思考はまるで道草台風のようなものでした。やっ和高知に上陸したって。頼むから早くどっかへ行ってくれ。でないと雨戸が閉まったままなんだから。

こらっ、またよからぬこと考えよってからに。すみません。まだ台風が……。